

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100034
法人名	株式会社 サニーライフ
事業所名	グループホーム柳河内 (ユニット名 Bユニット)
所在地	福岡市南区柳河内2-6-57
自己評価作成日	平成23年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年6月11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、開設して6年目を迎えた。閑静な住宅街にあり、交通の便が良いとは言えないが家族の来訪は大変多い。ホームの理念である「ゆったり楽しくその人らしく」の実践に向け、78歳から94歳の利用者が安心して暮らせるように管理者と職員が一丸となって取り組んでいる。職員は利用者と一緒に日常的な外出や楽しみ事を共有し、常に寄り添ったケアを心がけている。利用者ができる事を把握し、それぞれ得意な事を発揮できるように場面づくりを行い、生き甲斐や役割と一緒に見つけて、その人らしい生活ができるよう支援している。定期的に開かれる運営推進会議を活かして、地域への行事等に積極的に参加できるように支援を行い、地域の方々との交流も徐々に増えてきている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念について話しあい、新しい理念を作り上げ管理者と職員はその理念を基本にし、個々の介護ニーズに適した専門的サービスの提供に努めている。朝礼時に理念を全員で唱和し、日々の取組みの中で確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事や地域の行事に入居者が参加できる様に情報を収集し年間計画を立て、参加できるように支援している。子供の廃品回収作業を一緒にしたり、近くの保育園との交流の機会を作っている。近所の人との挨拶をおこなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、いきいきセンターの職員と打ち合わせをしながら、家族は勿論、民生委員の方や町内会長と地域の現状について情報交換しながら認知症の理解や支援等について取り組んでいる。見学の方や電話での介護相談を随時受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回入居状況、サービス内容始め職員の質の向上を目指すべく内外研修の参加状況等も報告している。行政からの指導(防火設備等・情報の公表調査)についても報告をしている。家族からの要望等又、ホームからの希望をお互いに伝達している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	県や市から来る事業者としての指導や研修の案内等のメールやFAXで必要な情報を収集して、分からない点などは積極的に電話等で問い合わせしたり、確認したりと協力関係を築く努力をしている。市の「出前講座」も利用したりして情報を得たりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について内外の研修等でしないケアを基本としているが、現状ではご家族の強い希望もあり、拘束については皆無とは言えない状況である。職員や家族とも話し合いをし、鍵の開錠や昼食時は椅子に座りかえて頂き、必ず職員が横に付添うようにし、ベルトの廃止に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に職員に外部研修への参加を促し、スタッフ会議等で全職員に研修報告をするなどして学ぶ機会を設け、虐待防止の徹底を図っている。見学に来られる家族や民生委員等にも説明したり、アドバイスをを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が外部研修に参加したり、運営推進会議でいきいきセンターの職員に個人情報の保護についてや権利擁護に関する制度について説明をして貰うなどして学ぶ機会を作っている。研修資料等を全職員が回覧したりスタッフ会議で必ず勉強会をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を提示し内容全てを丁寧に説明している。不安や疑問点について確認を必ず行い理解と納得を得られる様にしている。入居後も日々の中で逐次、本人家族等に話を聴いている。玄関にご意見箱を設置し気軽に意見が頂ける様に留意している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等については意見箱を設置し気軽に意見を頂ける様にしている。面会時は勿論、運営推進会議、電話等で相談苦情を言える様な雰囲気作りに管理者・職員は努めている。本人には日々の中でしっかり把握するよう努めている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年2回「OJT」を実施し個人面談を行い職員の目標設定や評価をすると同時に希望や悩みを聞き離職に繋がらない努力をしている。日々の業務の中でも常に管理者は職員と意見等の交換に努めている。施設長も管理者からの報告を受け把握できている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が逐次施設長に報告しており、全て把握している。状況によっては施設長と職員が気軽に直接話し合う機会も設けており、働きやすい環境づくり等の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	法人代表者・施設長・管理者は連携を図り、職員の募集採用については雇用の原則を守っている。就業規則に従い採用後は一人ひとりの長所や経験を伸ばす事が出来るように配慮している		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	この件に関する外部研修には職員に積極的に参加させて、利用者・家族・職員の人権の尊重を念頭においている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員には必要に応じて研修を受けの機会を作り、職員一人ひとりのケアの質の向上に繋がるよう努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に入会し、総会や研修会に参加するようにしている。同業者同士のネットワーク作りに努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入院されている方は病院に出向き、本人とあって話を聴き、信頼関係づくりに努めている。入居希望等で見学に来られた時は、施設内を見ていただき雰囲気を感じて頂いている。感想や要望等を聴いたりして安心感を得て頂けるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること、不安なこと、要望等を傾聴、受容し、信頼関係づくりにつとめている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の基本情報・バックグラウンド・アセスメントなどにより、これまでの暮らしやサービス内容の把握に努め、訪問マッサージの利用、整形外科でのリハビリ等、その方にあった、サービスの利用も含めた対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持って頂き、その都度労いの言葉をかけている。また、慣習や慣わしを教えていただき、暮らしを共にする者同士の信頼関係を築くように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なかなか来られないご家族へは電話をして面会にきていただくよう依頼したり、利用者の様子や職員の思いを伝え、信頼、協力関係を築くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の化粧品屋さんに化粧品療法に来ていただく等、関係が途切れないように支援に努めている。入居前から利用していた病院への通院などについても関係が継続できるように支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歩行が安定している方が手添えされ、優しく声を掛け合ったり、入居者さん同士が支えあい、理解して頂けるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者から電話がかかってきたり、亡くなった利用者の方の自宅にご焼香に伺ったりして、継続的な関わり、支援をするようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや暮らし方の希望を尊重するようにしている。ご家族にも以前お好きだったものを尋ね、本人本位で対応している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族へ生活歴の聞き取りを行っている。ご家族にも希望や意向はないか、面会時に声かけ把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動や様子から気づき、必要に応じてアセスメントを行い、お一人お一人を理解して現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には日頃の関わりの中で思いや意向を聴き、活かしている。スタッフ会議のあと、職員全員でモニタリング、カンファレンス、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にカルテがあり、食事・水分量・排泄、バイタルなど、日々の暮らしの様子や本人の言葉、気づきなどを記録している。職員は勤務開始前に確認をして申し送りを聴くようにし、情報の共有、ケアに取り組み、介護計画見直しに反映している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議の際にご家族、地域の方と共に地上デジタル放送についてや、環境局の方からウイルスについての話を聴いて学んでいる。また、オムツサービスも利用している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回訪問理美容に来ていただいたり、ボランティアでギター演奏に来ていただく等催し物を計画し、楽しんで頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を尊重し、訪問診療機関を変更し、納得が得られる医療機関を紹介する等、信頼関係を築きながら適切な医療が受けられ、ご家族にも報告ができるように支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全身の状態はもちろん、口腔内もくまなく観察し、その都度、看護師に相談、ご家族にも相談し、適切な処置を取るよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者さんが入院された際は病院関係者に情報提供、電話や面会時に現状の報告や退院時や検診時も情報交換等、関係づくりに努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議の際にホームでできることを十分に説明、理解して頂き、またケアプランの説明を行う際にターミナルについて、ご家族がどのような考えをお持ちなのか確認、ケアプランにも明記し、チームで共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1回、緊急時対応訓練を実施し、全ての職員が応急手当や初期対応を確認し、分からないところは看護師に訊く等取り組んでいる。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、避難訓練を実施し、全職員が避難できる方法を身につけており、昨年は消防署の方に立ち会って頂き、地域の方、入居者さん、そのご家族も参加され、避難法について質問、確認する機会をもった。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないように訪問診療の際も居室でお願いしている。また、勉強会でもスタッフの言葉かけの勉強をし、休憩室にも言い換え表を貼り、注意、心がけている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	メニュー作りの際も食べたいものを聴いて取り入れたり、おやつもまずお見せして好きなものを選んで頂いたり、「帰ります」と言われても否定せずに受容する等対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク等の声かけはするが自由参加とし、表情が険しかったり、「寝ときたい」と言われれば無理強いせず、その方の意思や希望を尊重している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアバンドやヘアアクセサリーで髪を留めたり、お出掛けの際には帽子やハンドバックを持って頂いたり、その人らしいおしゃれができるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けはもちろん、その方の「できること」に応じて、もやしの根とり、ゴボウのそぎ切りをスタッフと共に行い、皆と一緒に食事をしている。食事後もテーブル拭きやおぼんふきを手伝って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量チェック表をつくり、スタッフ全員がチェックしており、ご家族が持参された栄養補助食品やうなぎ等栄養価の高いものを食事にプラスして提供、栄養補給の支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、一人ひとりの力に応じて見守り、介助を行っている。訪問歯科を利用し、口腔内のケアやチェック等を実施、スタッフへ指導して頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、排泄パターンを把握してトイレ誘導し、排泄の失敗を減らすように取り組んでいる。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スタッフ会議や勉強会でも便秘の原因や及ぼす影響を皆で勉強し、緩下剤に頼るだけでなく、10時のバナナミルクや食物繊維を多く含む食べ物を提供して、出来るだけ自然排便を促すように取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	「今日はいりたくない」と入浴拒否のあるかたには無理強いせず、清拭の実施やまた翌日にお誘いする等、その方の希望に応じた入浴の支援をしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況、覚醒状況にあわせて朝食後や昼食後に合わせてベッドで臥床、ソファで休息して頂いている。寝付きが悪い時はホットミルクをおだしし、ゆっくり関わりをもつよう支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、効能効果は理解できている。誤薬や飲み忘れのないように毎回目付と氏名を声に出している。また緩下剤一覧表をつくり確認できるようにしている。入居者さんの状態を把握し、症状の変化があれば看護師に報告、主治医へ連絡と、連携をとっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方にはカラオケや歌のレクに参加して頂き、お習字が得意な方には習字を書くことが日課となるように支援している。また、晩酌を希望される方には食事時にノンアルコールビールをお出ししたり、ギター演奏会等催している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ヤフードームや義士祭など入居者さんが「行きたい」と言われる希望にそって計画し、ご家族と協力してお出掛けしている。また個別レクレーションではスタッフと1対1で、食事や職員の自宅の庭を観光に出かける支援をしている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る方は居られないが、買い物に出かけたり、外出時には必要に応じて、本人に小額を持って頂き、支払いができるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いはもちろんお出掛けした写真付きのはがきをつくり、入居者さんに宛名書きをしてもらい送っている。また、母の日のプレゼントを受け取り、お礼の電話のやりとりができるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはプランター、居間には生花を飾り、壁面には季節感をとり入れた飾り付けをしている。台所で調理し、家庭的な香りがしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを、非常口横やエレベーター前には椅子を設置しており、いつでも自由に過ごすことができる雰囲気がある。窓の外を眺めたり、談話したり、思い思いに過ごして頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたタンスや鏡台などを持ちこまれて、これまで通りに使用して頂いている。また、ご家族との写真や手紙を居室に貼る等している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「何がわかりにくいのか」常に話し合いをし、転倒しないような安全な環境をつくり、1人1人の持っている力を大切にしている。		